

はせ 長谷みらい広場

長谷で暮らす人と人をつなげる VOL.4

2023年4月発行
発行：溝口未来プロジェクト

住所：伊那市長谷溝口430-1
TEL/FAX：0265-98-2015
E-MAIL：mizokuchi.mp@gmail.com
http://blog.livedoor.jp/mizokuchimp

活動の様子は
ブログから



編集
委員

中山勝司、中山友悦、
中山幾雄、倉田みちる、
高橋隆文、橋爪勇志、
羽場友理枝、坂野心一朗、
松井博、宮川沙加

「長谷みらい広場」は伊那市田舎暮らしモデル地域
事業交付金を活用して発行しています。

令 和4年12月3日、道の駅「南アルプスむら」で、5回目となる長谷クリスマスが行われました。「HASE Xmas 2022」について！「おどって！かんじよう!!」というテーマのもとに行われた長谷クリスマス。企画・運営は、伊那市地域おこし協力隊の宮川沙加さんが行いました。

点灯式の当日は、道の駅の広場を住民有志が作ったカラフルな旗が彩り、長谷・高遠を中心に活動する人たちの出展ブースが11店舗連なるマルシェも行われました。各種ワークショップに加え、紙芝居や演奏・親子での体験など7組のパフォーマンスもあり、「大文化祭だね」という声がかかる人から聞こえるほど賑やかで楽しいイベントとなりました。

この長谷クリスマスは平成30年に当時の伊那市地域おこし協力隊だった田中聡子さんが企画・運営し「南アルプスの村に光のニューシンプルを！」というテーマのもと始まりました。道の駅に30年ほど前に植えられたモミの木に、イルミネーションが飾り付けられ冬の長谷を照らしてくれました。

(文・羽)

飲食やクラフトの11の出店ブース

親子遊び&みんなでダンス

長谷トリオの演奏

イーナちゃん Trio の演奏

糸ぐるまの紙芝居

伊那西地区を考える会の
稲藁オーナメント

実物は道の駅ビジターセンターで見られます

リースづくりや流木ツリー、
消しゴムはんこのワークショップ

イルミネーションが灯されたモミの木

当日の様子が
YOUTUBEで
ご覧いただけます



地域おこし協力隊

みやかわ さやか
宮川沙加さん

【長谷溝口在住】



沙加さん(31)と娘の絵鳴ちゃん(1)、夫の継右さん(30)

長 谷クリスマスには3回目から関わりました。コロナ禍でイベントの継続も危ぶまれた中、長谷住民として形が変わったとしても毎年イルミネーションが灯ってほしい！地域で作る地域のイベントがほしい！という思いから、田中さんの活動を引き継ぎました。

回を重ねるうちに、地域の方々から「ワークショップをやってみよう」「マルシェをしたい」と嬉しい声をいただくようになり、その声をもとにイベントを作っていました。

出店者や出演者の方たちとも同じ思いでイベントを作りたいという思いから、皆さんの工房や練習場所を直接訪れ、顔を見てご挨拶することを心がけました。ご来場された方々も含め、各々の形で長谷クリスマスを造ってくださったおかげで温かなイベントになった気がします。

また、イベント全体としては子どもが楽しめる、家族みんなが笑顔になれるようなものを目指し、そんなワークショップを企画しました。コロナ禍で遊びに行ける場所も限られる子どもたちも、このイベントで少しでも輝くことができ、笑顔になってくれたら嬉しいですね。

今回は長谷中学校や長谷小学校の皆さんも出店・出演の予定で準備をされています。コロナ禍で参加できず残念でしたが、本当に感謝しています。地元の人たちの思いを形にしながら地域に根ざしたイベントになっていけばいいと思います。

(文・宮)

地域と人をつなぐ

ここでは、長谷にどんな人が住んでいるのかをご紹介します。

非持に住む羽場権二さん、有里さん、詩葉ちゃん、有里さんは4年前に権二さんの地元である長谷にUターンしました。子どもの頃長谷の山でキノコ採りをした原体験から農学部で学び、最初は長谷に戻ろうと考えていた権二さん。会計事務所の農業事業部や農業法人で働き農家の経営支援の会社を起業し、場所を選ばずにできる仕事になったタイミングで、長谷に戻りたいと叔父に相談したところ、農業法人「ファームはせ」でも働くことになりました。

ファームはせでは、中学生と「すずな」のメニュー開発を行い母校の生徒と触れ合ったり、地域の人と関わる機会が多くなったりしたことでより頑張ろうと張り合いになっていくそうです。仕事をすることで今後の地域農業を担っていききたいと話してくれました。

岐阜県出身の有里さんは、いずれは地元に戻りたいという権二さんの気持ちを聞いて

長谷で生まれ育ちました



いけがみ としあき 池上 敏明さん(72) [長谷非持山]

長谷で生まれ、現在も長谷非持山に暮らす池上敏明さんにお話を伺いました。18歳頃から10年ほど諏訪に出て、オルゴールを作る会社に勤められ、非持山に戻って来てからは、機械設計と農業との二足のわらじで暮らし始めたそうです。

現在、農事組合法人ひじやま代表「入野谷在来蕎麦振興会会長」「伊那市農業委員長谷地区地区長」と農業に関する面で活躍されています。5つほどの職務を兼務されているそうです。農業は子どものころから義務でやっていたという「農業は子どものころから義務でやっていたというもの」と笑っていました。

お話をきいていくと、農産物のネット販売など、新しいデジタルな取り組みにも前向きな姿勢が印象的です。若い移住者家族のこともあたたかく迎え入れ、いつも美味しい季節の加工品を分けてくれます。どうして移住者にこんなに良くされているのか尋ねると、「過疎化の防止、地区の元気の維持のため、若い人に協力できることはしたい」と話してくれました。

長谷に蕎麦屋さんを開店させたい、ルバーブ栽培の後継者も募集したい、など最後まで話はずきませんでした。話が、こうして第一線で動いてくださっている方を感じするばかりではなく、若い次世代が少しずつでも引き継いでいかなければいけないと切に感じた取材となりました。

長谷に蕎麦屋さんを開店させたい、ルバーブ栽培の後継者も募集したい、など最後まで話はずきませんでした。話が、こうして第一線で動いてくださっている方を感じするばかりではなく、若い次世代が少しずつでも引き継いでいかなければいけないと切に感じた取材となりました。

「特別なことです。店はそんなに長くはできない。心安らかにいられるのは長谷のこの景色。ここを存分に味わいたい。できればずっとここにいたい。」

(文・倉)

農業法人ファームはせから地域へ

長谷で生まれ育ちました



はま けんじ けんじ けんじ ことば 羽場(城口) 権二さん(36)・有里さん(37)・詩葉ちゃん(6) [長谷非持]

長谷で生まれ、現在も長谷非持山に暮らす池上敏明さんにお話を伺いました。18歳頃から10年ほど諏訪に出て、オルゴールを作る会社に勤められ、非持山に戻って来てからは、機械設計と農業との二足のわらじで暮らし始めたそうです。

現在、農事組合法人ひじやま代表「入野谷在来蕎麦振興会会長」「伊那市農業委員長谷地区地区長」と農業に関する面で活躍されています。5つほどの職務を兼務されているそうです。農業は子どものころから義務でやっていたという「農業は子どものころから義務でやっていたというもの」と笑っていました。

お話をきいていくと、農産物のネット販売など、新しいデジタルな取り組みにも前向きな姿勢が印象的です。若い移住者家族のこともあたたかく迎え入れ、いつも美味しい季節の加工品を分けてくれます。どうして移住者にこんなに良くされているのか尋ねると、「過疎化の防止、地区の元気の維持のため、若い人に協力できることはしたい」と話してくれました。

長谷に蕎麦屋さんを開店させたい、ルバーブ栽培の後継者も募集したい、など最後まで話はずきませんでした。話が、こうして第一線で動いてくださっている方を感じするばかりではなく、若い次世代が少しずつでも引き継いでいかなければいけないと切に感じた取材となりました。

「特別なことです。店はそんなに長くはできない。心安らかにいられるのは長谷のこの景色。ここを存分に味わいたい。できればずっとここにいたい。」

(文・倉)

柔軟な発想で地域農業を支える

移住してきました



しむら ちえこ 志村 千恵子さん(71) [長谷黒河内]

地域に入り込めないと移住した意味がない

黒河内黒川にある「木楽茶屋」の志村千恵子さんは千葉県からご主人と二人で移住し、今年の4月で20年目を迎えます。夫婦で南アルプスを登山された際に、たまたま出会った今の家が空き家であったこと、そしてそこからの景色が忘れられず移住を決めたそうです。当時は仙流荘から新宿行きの高速バスもあり、関東で暮らすお子さんたちが行き来しやすいことも決め手の一つになりました。

移住後はご夫婦共に市内でお仕事をしながら、地元の方々の交流を深めていきました。自分たちの生活よりも地域を優先し、決め事も一つ一つ大切にしていたそうです。行事に参加しても自ら率先して参加してききました。その結果、近所の方から手取り足取り色んなことを教えてもらえたと千恵子さんは仰います。

移住して9年程、千恵子さんは和裁教室の「ちゃんちゃんこの会」を主催していました。その生徒さん達から、「お店をやったら？」との提案を受け、移住して10年目に「木楽茶屋」をオープン。当時から登山者の来店が多く、中には仙丈登山の際に来店したのをきっかけに、年に一度は必ず立ち寄ってくれ

るドイツ人女性もいるそうです。開店して1年目に大切なご主人がご病気のため他界。お店もやめようと思いましたが、周囲からの要望もあり無理せずやっていこうと決意されたそうです。5周年記念の際にはダムカレーを考案。その後ご自身の病気も発覚し、2回の手術を経験されましたが、県外のダムカレーファンが沢山来たこともあり、やらなくちゃと無理ない範囲で継続されてきました。

(文・倉)

神奈川県川崎市から2018年6月に地域おこし協力隊として長谷へ移住してきた松井さん。現在は、長谷市野瀬に古民家を取得し、そこに単身で暮らしています。

2021年11月に市野瀬に古民家を取得。現在は大幅な改修はせずに住んでいます。今は民泊などもできるようにリノベーションしていきたい、と敷地内を案内してくれました。「今は仕事が忙しいですが、今後はもっと私生活を豊かにし、半自給も濃く暮らしたい」と話してくれました。

(文・倉)

地域との繋がりを大切に

移住してきました



まつい しんいちろう 松井 伸一郎さん(36) [長谷市野瀬]

移住後はご夫婦共に市内でお仕事をしながら、地元の方々の交流を深めていきました。自分たちの生活よりも地域を優先し、決め事も一つ一つ大切にしていたそうです。行事に参加しても自ら率先して参加してききました。その結果、近所の方から手取り足取り色んなことを教えてもらえたと千恵子さんは仰います。

「特別なことです。店はそんなに長くはできない。心安らかにいられるのは長谷のこの景色。ここを存分に味わいたい。できればずっとここにいたい。」

(文・倉)

わたしの📷 好きな場所

長谷でお気に入りの場所を
教えていただきました。



こまつ としみ
小松 壽美さん(77) [長谷中尾]

長谷中尾出身。
1945年9月生まれ。養蚕の技術員
を経てJAに勤め、その後14年間
長谷中学校の用務員として勤務。
最近是非持の写真仲間と撮影を
楽しんでいる。



入っています。鹿子沢に2段
に流れる滝で、昔は歌に詠ま
れたほどきれいです。手前に
橋がかかりうまく写真に撮
れないのが残念ですが、長谷
の人にはぜひ、見てもらいた
いと思います。



黒河内から美和湖北方を望む

黒河内から見る美和湖

黒河内公民館の前から見る美和湖は、
ダムや学校、神田橋が見えて長谷らしい
風景だなど気に入っている場所です。

私は平成7年から21年まで長谷中学
校の用務員をしていました。中尾から通
勤で通う道すがら、きれいだなと思うと
車を停めてはこの景色を撮っていました
た。長谷中学校では、14年間で先生75人、
生徒225人と関わり思い出深い時を
過ごしました。

写真が趣味で、月に2回以上県内外間
わず撮りに出かけ、知人に勧められ写真
展を開くこともあります。最近滝が好き
で、長谷では黒河内の鹿の子滝が気に

上伊那医療生活協同組合

生協宅幼老所「みなみ」

長谷地域には、さまざまな活動をして
いる団体があります。今回は、生協宅幼老所
「みなみ」に登場していただきました。

あたたかく、居心地の良い
宅幼老所をめざして

宅幼老所「みなみ」は地域の人の
ちの熱い想いと4年に及ぶ開設運
動の中で2016年(平成28年)
1月に長谷溝口にオープンしたデ
イサービスの施設です。「みなみ」は
築100年を超える古民家を改装
しました。利用者さんがほっとでき
る施設と、一緒に運動した地域の人
たちが職員となって営業が始まり
ました。

初代所長
井口希代子さんの想い

家庭的な雰囲気の中で一人ひと
りの暮らし方や思いに寄り添った
ケアを行っていきたくと話され、利
用者さんと共に食事の準備を行い
生活リハビリで脳も身体も心も動
かし皆さん笑顔で会話も弾み生き
生きと活動されているとのことだ
した。



利用者さんと食事準備

「みなみ」の畑で採れた
新鮮な野菜で美味しい食事

畑からは組合員の皆さん手作りの
野菜を毎年提供して頂いていま
す。又、地域の皆さんからは春には
釣ったイワナ、秋には茸、柿、夕顔
など豊富な食材が提供され食事を楽
しむことができます。

桜、バラの花見、ブドウ狩り
などの楽しい外出

家庭生活の中ではなかなか外出す
る事は困難ですが、ベテラン職員が
付き添うことで安心して外出でき毎
年の楽しい行事となっています。

地域との交流も盛んです

長谷小学校5年生が近くの田圃
で毎年もち米作りをしています。そ
こへ見学に行き稲把の作り方を伝
授しながら交流をしました。その後
児童の皆さんが「みなみ」を来訪さ
れ歌を披露してくれるなど、卒業す
るまで交流が続いているとのこと
でした。また、長谷公民館の文化祭
には利用者さんの手作り作品を出
品し、利用者さんと見学にも行きま
した。



宅幼老所「みなみ」の外観

職員の想いを
聞いてみました

開設当時から勤務する
田村ちづ子さん

「みなみ」は小規模施設な
らではの家庭的な雰囲気の中
で利用者さんはくつろいで過
ごされています。外出時は本
当に楽しそうに私たちも嬉し
くやり甲斐を感じます。

職員のみなさんも順次若
くなっていますが「みなみ」
の良いところを受け継いで
くれているので頼もしく嬉
しいです。

移住して職員となった
松井美香里さん

「みなみ」ならではの
家庭的な雰囲気は
大きな施設ではでき
ないので大事にして
いきたいですね。私に
は幼児がいるので保
育園に預かって頂き
仕事にきていますが、
預かって頂けない人
もいます。宅「幼」老所
ですので職員が子ど
もを職場に連れて来
ても働ければ、介護職
員の不足も補え若い
お母さんも助かると思
います。

松井さんの紹介で、昨年移住されたお母さんが、
最近「みなみ」の職員に加わりました。

MEMO

定員・10名
営業日・月曜日～土曜日
(祝日も営業)
利用時間・概ね9時～16時
問合せ・0265-9617432

長谷地域への 来訪者数は どうなっているの？

長谷地域の人口は令和5年2月現在1,600人です(住民基本台帳)。「長谷みらい広場」1号発行の令和2年4月1日時点の人口は1,718人、3年間で約100人の人口減少となっています。

一方、当地域への来訪者は増加傾向にあります。本号ではその裏付けとなるデータを紹介します。長谷地域の観光施設等をピックアップして来訪者の調査を行いました。令和2年3月から新型コロナの影響が拡大し、来訪者数は激減していますが、令和4年には回復しています。(文・高)

(単位：人/年)

長谷地域の観光施設等	事業内容	地区	令和1年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)
分杭峠シャトルバス	ゼロ磁場観光	市野瀬	25,191	12,613	運休	37,330
南アルプス林道バス	南アルプス登山	黒河内	59,991	運休	25,264	50,735
仙流荘	日帰り	黒河内	43,249	10,874	11,176	15,114
	宿泊				1,072	2,400
鹿嶺高原キャンプ場	キャンプ場	非持	5,021	4,944	7,080	7,600
美和湖公園 グラウンド	サッカー	黒河内	-	-	3,445	5,895
	犬関係イベント				32イベント	51イベント
	ドローン				145	150
	流通利用				36	40
長谷総合グラウンド	スポーツイベント	非持	-	-	650	985
南アルプス むら長谷	パンや	非持	-	-	86,000	80,000
	ファームはせ				67,400	74,000
	お食事処すずな				40,338	45,982
	飲食				10,230	17,572
おおよその来訪者(延べ人数)			27万人	15万人	18万人	32万人

※情報の無い年は概略数等を加算して目安とした
※複数施設への重複を考慮し、「延べ人数」とした

注1) 概略数 注2) 天候の影響あり 注3) 2020年道崩れで、7月下旬まで閉鎖 注4) 2020年4/14~5/31、コロナ禍で休業

(出所：伊那市役所観光課、農政課、長谷総合支所他)

中学生と住民が「長谷」を考える場 長谷サミット 開催!

1月27日、長谷中学校で生徒会が主催する長谷の縁側「長谷サミット」第1回目が行われました。「私たちの長谷をどのような長谷にしていきたいか」をテーマに、20代から70代まで地元住民18名が参加し、生徒と意見交換しました。生徒からは目指す長谷として「活気のある長谷」「魅力のある長谷」「協力し合える長谷」と3つのキーワードが出され、それを基に8つの班に分かれ話し合いました。



第一回長谷サミットの様子

地域の人間同士の交流が活気のある地域につながるのではないかとこの意見が多く出され、年代を超えた交流だけでなく、世代ごとの交流の必要性も話題に上りました。生徒からは、ふるさと祭りが中学生にとっても楽しみなイベントだったことや、地域の人の交流が大切だと感じていること、中学校が中心となった交流の機会や長谷が一つになるようなイベントを行いたいといった意見が出ました。

ある生徒は「15年後、長谷にいたいと思うか」という質問に、進学や就職で長谷を出ることになるかもしれないが、自分が大人になった時、長谷中生とこんな風に関わりたと思うし、そういう場が続いてほしいと話してくれました。

参加した地域住民は、中学生がこれだけ地域のことを考えてくれてるのが嬉しいと口々に話し、長谷にとって学校は地域住民をつなげる一つの核となっているのを感じました。

このサミットは4月に向け2回行われ、今後の交流活動にも活かしていくそうです。(文・羽)

おしらせ

使わなくなった「田植え機」を譲ってください



溝口未来プロジェクトでは無農薬有機栽培を行っています。稲作で一番たいへんな作業が田んぼ内の除草と言われています。この除草作業を軽減するため、田植え機を改造した除草機を考案中です。

そのため田植え機を探しています。乗用タイプが理想ですが歩行タイプでもありがたいです。どなたか家に眠っている田植え機がありましたら安価に譲っていただきたくお願い致します。



乗用タイプの除草機イメージ

製作した除草機は溝口未来プロジェクトで管理し、誰でも使用できるように考えています。(文・松)

【連絡先】
溝口未来プロジェクト産業創生部会
中島章 0265・98・2419
松井博 070・4516・0882

紙面に載せてほしいことやご意見を募集しています!

「長谷みらい広場」にて取り扱って欲しいテーマ、また集落や農業法人、組合などで発信したい内容などありましたらご連絡ください。

【問合せ先】
溝口未来プロジェクト
TEL/FAX 0265・98・2015
メール mizokuchi.mp@gmail.com

